

## Ⅱ 調査報告

### 1 訪問都市概要

#### (1) ブエノスアイレス (アルゼンチン共和国)

人口 300 万人超を擁するアルゼンチンの首都で、州に属さず特別区として扱われている。語源はスペイン語で「buenos (良い) aires (空気、風)」を意味し、世界有数の都市としての評価を得ている。特に碁盤目のような街路には並木が整備されており、「南米のパリ」と称されるなど、中南米で最もヨーロッパ的な雰囲気と生活様式を持っている。

アルゼンチンは、地理的には、日本から見ると地球のちょうど裏側に当たり、樺太から台湾に及ぶ距離に相当する南北に長い国土を持った国である。ちなみに、アルゼンチンの南北は 3,750km でほぼ陸続き、日本の長さは 3,200km で海洋部分が多くなっている。面積は日本の約 7.5 倍、人口は 3 分の 1 である。

アルゼンチンの農業としては、一つにネコヤナギの生産がある。このネコヤナギを材料に家具を製作している。日本においては、モウソウチクなどを使用して家具を製作しているが、アルゼンチンにはこれが生息していないため、ネコヤナギを使用するとのことである。また、米作も行われているが、主として細長いタイ米 (長粒種) が生産されてきた。しかし、近年アメリカから伝わってきた日本食の「寿司ブーム」でアメリカ流の「寿司」が食べられるようになり、寿司のご飯は短粒種が美味とされるため、日本のコシヒカリを栽培するようになった。スーパーでも日本の寿司の食材が販売されている。

さらに、ワインの原料となるブドウはマルバック種というものが主として栽培され、アルゼンチンのフラッグワインとして知られている。メンドーサ州を中心に 1,100 社ものワイン工場が操業していて、日系アルゼンチン企業が 1 社、丸紅系列も 1 社存在している。また、日本と気候が似ている地域ではリンゴや梨も生産されている。その他、日本からの移民が生産技術を持ち込んだ野菜や切花も生産されている。

穀物に関しては、かつてアルゼンチンは世界の穀物倉庫と呼ばれるほどの生産量があった。穀物、向日葵、トウモロコシは世界最大の生産国になっている。大豆も生産されているが、大豆生産量の7割は中国に輸出されている。

牧畜も盛んに行われていて、日本の国土の2倍の大草原で草を主食に肉牛、乳牛をも育てている。現地には、日本企業も買い付けに訪れており、チーズなどの輸入に参入しているとのことであった。

ブエノスアイレスはまるで海のような川幅を持つラ・プラタ川に面し、都市的雰囲気と港町の顔を持っている。ボカ地区という港町には伝統的な様式を残した建築物が残されている。「コンベンティージョ(長屋)」といわれる建物には、かつて世界各国からの移民が住んでいたとのこと、現在は一部が遺されている。壁面は港町で船の修理に使った塗装用のペンキの残りを活用して非常にカラフルな色彩で彩られている。

## (2) コロニア県 (ウルグアイ東方共和国)

コロニア県はウルグアイ南西部の国境に位置し、ウルグアイを構成する県の一つである。ウルグアイ領とアルゼンチン領を隔てるラ・プラタ川に面し、船で渡河できることから、ウルグアイの玄関口としての役割を持っている。県都は1680年に建設されたコロニア・デル・サクラメントであり、地理的な環境から幾度となく支配国が変わった。その影響は世界遺産に登録されているこの都市の景観に如実に現れているが、その点については後述する。また、コロニア・デル・サクラメントは人口が少なく、新住民による開発も緩やかなスピードで進んでおり、温暖な気候の中で穏やかな暮らしが保たれている様子が説明や町の風景から感じられた。

ウルグアイは、治安情勢も比較的安定している国で、与野党も財政再建などの重要な課題については協力し、政情も落ち着いている状況であった。これは、近隣のデフォルトした国を反面教師に改革を進めているということ、大国に囲まれ内紛を起こしている状況ではないことが挙げられる。

農業としては、牧畜が盛んに行われており牛肉料理が有名である。また、

タナット種のブドウを使用して品質の良いワインも生産されている。日本への輸出は非常に少なく、販路の拡大も一つの国際貢献として考えられている。

### (3) リオデジャネイロ（ブラジル連邦共和国）

ブラジル南東部に位置するリオデジャネイロ州の州都で、世界有数のメガシティであり、国内有数の港湾都市でもある。近年は2014年サッカーの世界カップ大会の招致、2016年オリンピック・パラリンピックの招致と大きなスポーツイベントの開催を控え、施設整備や、治安回復など急ピッチで都市づくりを推進している最中である。

人口は600万人を超え、都市圏人口は1,167万人（2010年）であり、サンパウロに次ぐブラジル第二の都市である。また、美しい景観を持つ港は、世界三大美港の一つとされている。

現地では、世界的に有名な行事として有名なカーニバルが行われており、2月の開催期には多くの人々が訪れている。日本人の出場参加者も増えており、ブラジル在住の日系人以外にも、現地に滞在して訓練し、出場している若者もいる。

治安に関しては、オリンピック・パラリンピック開催までに回復を目指すということで、ファヴェーラ（貧民街）と呼ばれる町を拠点とするマフィア組織の撲滅を目指して軍隊が出動している。このファヴェーラは不法占拠による住居群やスラム化した町で、近隣同士で手の空いたときに増築を手伝い合うなど、絶えず工事を続けている。

### (4) サンパウロ（ブラジル連邦共和国）

ブラジル南東部に位置するサンパウロ州の首府である。人口は、1,100万人以上で、ブラジル最大かつ南半球最大のメガシティである。2010年の都市圏人口は2,018万人で、南半球最大であり、南米経済の中心を担っている。

1554年にイエズス会の神父達が布教のためにここに定住し、最初にミサをあげた日である1月25日が「聖パウロの回心」の日であったため、サンパウロと名付けられたとのことである。町にはキリスト教関係の教会があり、人々が集まってバザーのようなものを開いていた。人がたくさん出ているときに

は、引ったくりやすりなどの被害も考えられるとのことである。

東洋人街には多くの日本人の商店、中国人の商店が見受けられた。印象的であったのは、ブラジル有数の銀行が自行の周年事業に当たり、日系移民との取引がなければ現在の繁栄はなかったとして、東洋人街周辺の建物に屋根瓦風の庇を着ける工事費を供出したとのこと、日系移民が海外において堅実かつ勤勉な事業や取引をしていたことが日本に対する信頼感や好感度を上げていたことである。